

らいぶ LIVE 創 REATOR つくりえいたー

NO.53
2010年12月
研究広報誌

学びの質の高まりをめざして

～『吟味を生み出す対話』
をつくる～

CONTENTS

- 研究発表会より……………1
- 「研究会レポート(各教科・領域からの報告)」……………2
- 学習紹介：「たのしいあそび あつまれ!!」……………3
- 学習紹介：「科学的な思考を促すために～」……………4
- 学習紹介：「本気で取り組む子を育てる」……………5
- 学習紹介：「『シンコペテッドクロック』をうたおう」……………6
- 学習紹介：「思考の過程を“みえる化”する!!」……………7
- 学習紹介：「椋鳩十の作品を味わおう」……………8

2010 教育研究発表会を終えて

去る10月30日(土)台風の接近が予想される中、開催した教育研究発表会には、北は北海道・東北、南は沖縄など全国各地より700名を超える先生方にお集まり頂き、ありがとうございました。

本年度は、「学びの質の高まりをめざして」～『吟味を生み出す対話』をつくる～という研究テーマのもと、昨年度に引き続き秋田喜代美先生(東京大学大学院教授)のご指導を仰ぎながら校内研究授業を重ねてまいりました。

研究会当日は、吟味を生み出す対話をつくるために私たちが授業づくりにおいて心がけてきた、2つの視点を示し、23本の公開授業を見ていただきました。



研究主任
須佐 宏

- ① 「学びの質の高まりを支えるもの」として大切にしてきた5つのもの(聴き合う学級風土・みとりと支援・プロジェクト型学習・協同的な学び・自己の課題意識)が概ね満たされているか。
- ② 子どもたちが、同じ土俵の上で対象への思いや考えに理由や根拠をもつことができるように課題が焦点化されているか。



ご参観いただいた先生方からは、「話したくて聴きたくて仕方のない子どもたちが十分育っているなど感じた。」「子どもが互いの話をよく聴く姿が随所にあふれている授業だった。子どもが学習課題を自己の課題と認識することの大切さが改めて確認できた。」「自分の考えを述べる時、教科書の本文等から根拠を見つけて発言している姿にびっくりさせられた。」などのご感想をいただきました。また、一方で、「課題の焦点化については、教師が子どもの学びに寄り添うことが大切ではないか。」「リフレクション(学びの振り返り)の提案もするべきではないか。」「和歌山、近畿、そして全国をリードする学校として、段階的・系統的な指導の具体例も示して欲しい。」などのご意見をいただきました。

これらのご意見・ご感想を励みに、本校の研究をさらに進めていきたいと考えています。来年度も、ぜひ本校の教育研究発表会にご参会いただけますようお願い致します。2011年度研究発表会の日程は、以下の通りです。

2011年11月5日(土) 講師 秋田喜代美先生(東京大学大学院教授)

秋田先生のご講演にも「具体的な授業場面を取り上げてのお話が大変わかりやすかったです。」「チェック項目などを具体的に示して頂いたのでよくわかりました。」「教師の居方(ポジショニング)について子どもの学びを支える意味でとても重要であることを再認識しました。」などのご感想をいただきました。来年度もご期待ください。

国語科	「くじらぐも」「ごんぎつね」「大造じいさんとガン」3本の文学教材において、『発想力・論理力・表現力』の育成を意図した単元を構想し、言葉と言葉や文と文のつながりを意識した対話を行う学びの姿を見て頂きました。各協議会で頂いたみなさまからのご意見を活かしながら、今後も確かに豊かな言葉の力を育む授業を子どもたちとつくっていききたいと思います。ありがとうございました。
社会科	『一人ひとりの学びの充実をめざして』をテーマに研究をすすめてきました。研究発表会では、3年生「和歌山市の仕事人発見!!～こだわりのスーパーマーケットで働く人～」4年生「ふるさと発見プロジェクト～和歌山城たからものさがし～」5年生「ジュース工場のみみつ～和歌山の食品工場～」の授業を行い、それぞれのクラスで考えた問題をみんなで話し合いました。協議会では貴重なご意見を多数頂き本当にありがとうございました。
算数科	『子どもがつなげる算数科学習～互いの考えによりそいながら～』をテーマに、研究発表会では1年生の「ひろさくらべ」では、どれが一番広いかを様々な方法で考えていきました。2年生の「かけ算」では、新幹線の座席を使って座る方法を考えていきました。協議会で頂いた多くの示唆あふれるご意見・ご助言、ありがとうございました。今後の研究に活かしていきたいと思ひます。
理科	今年度、『自然現象の“本質”をさぐる理科の学び～省察する子どもを育てるなかで～』というテーマで研究を進めてきています。4年生では「ゆで玉子くん救出大作戦!」として『ものの温度とかさ』を、5年生では「めざせ小さな科学者」ということで『もののとけ方のヒミツ』を、6年生では「見えないものをイメージする」ことで『水よう液の性質』の授業を行いました。その後の協議会では多くの示唆あるご意見・ご助言を頂きました。
生活科	『1Cあきのおもちゃランド』に6年生を招待するために、子どもたちは様々な工夫をしながら、あきのおもちゃづくりを楽しみました。協議会は、小学校の先生だけでなく、幼稚園・特別支援学校の先生方からも様々な視点からの意見を頂くことができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。
音楽科	『比べる』ことでせまる音楽の魅力～思いや意図をもって表現できる子どもに～(2年次)をテーマに、2年生では「いい音を感じてあそぼう～シンコペーテッドクロック～」5年生では「音楽の仕組みを考えた旋律づくり～はじめ・なか・おわり～」の授業で提案しました。協議会・アンケートでは多数のご意見・ご助言をいただきました。ありがとうございました。
体育科	今年度の体育科では、対象との出合わせ方や子どもへの支援の仕方を研究し、豊かな吟味を生み出すための支援を考え、より質の高い学びを目指してきました。2年生では「わくわく!ジャンプランド」、6年生では「跳び箱」の授業を公開しました。協議会で参会者の皆様からいただいたご意見を今後の研究に生かしていきたいと思ひます。
図画工作科	たくさんの木に囲まれ、木の香りあふれる教室で、テーマを持った造形表現を展開する「木でできタワー」の授業を公開しました。木の特徴を活かしながら、表したいことを思いうかべたり、用具を活用したりして、のびのびと表現する子どもたちの姿をみて頂きました。今後も子どもが学ぶプロセスを大切に取り組んでいきたいと思ひます。
家庭科	新学習指導要領で新しく取り上げられる『消費生活と環境』を見据えての授業を提案しました。現在の消費社会に生きる子どもたちにとって、今後大切な内容であることを確認し合い、協議会・アンケートでは貴重な感想やご意見、ご助言を頂きました。ありがとうございました。
総合	『探究する学びを創る』というテーマをもとに、3年生において交流学习「ネット de カルタ」の授業を公開しました。相手に伝わるためには附属の自慢をどうカルタで表現すればよいのかということ、映像(絵札)と言語(読み札)を行き来しながら思考する過程をみて頂きました。協議会では、『総合的な学習が元気になるためには?』をテーマに、指導助言の先生方にご助言を頂き、参会者の皆様から力強い言葉を頂きました。
英語活動	英語ノート1“lesson8 I study Japanese.”を発展させ、国際交流活動を続けているオーストラリアの小学校の友達に自分たちが学んでいる教科について伝える活動の前段階を公開しました。テレビ会議システムを使って行いました。協議会では、今後につながるご意見やご助言を頂きました。
複式	授業公開Ⅰでは、1・2年生算数、授業公開Ⅱでは、3・4年生国語、5・6年生理科を提案しました。1年生から6年生までの段階を迫った子どもたちの成長した姿を見て頂き、授業後の複式全体協議会では、授業や複式提案についてグループに分かれて感想や意見を交流しました。その後各教科別で分科会を行いました。たくさんのご感想やご意見を、これからの活動に活かしていきたいと思ひます。

たくさんのご参加を頂きありがとうございました

「たのしいあそび あつまれ！！」

～あきをいっぱい楽しもう！～

生活科
1年C組
居澤 結美



○『1年C組あきのおもちゃランド』をひらこう！

この単元は年間を通して行っている大単元“はなあふ(春夏秋冬)たんけん”の一つである。ねらいは新学習指導要領の「季節の変化と生活」・「自然や物をつかった遊び」である。はる・なつたんけんではたくさんの自然とかかわり、その中でおもちゃづくりや遊び活動を行ってきた。そこで対象とかかわることはもちろんクラスの子どもたちともたくさんかかわることができた。本単元は、あきたんけんの従来のねらいに加え、新たに「生活や出来事の交流」に繋げていきたいと考え、計画したものである。子どもたちはあきたんけんに出かけ、たくさんのあきを見つけた。自分たちで見つけたあき（どんぐり・まつぼっくり・落ち葉・つばきの実など）は「先生！たからものがいっぱいやで！」と目を輝かせるものだった。このあきのもので「おもちゃづくり」をした。一人ひとりが思い思いに作り、クラスのみんなでたくさん遊んだ。この活動の中で子どもたちから、「先生、ほかのだれかといっしょに遊びたいな。（見せたいな。）」という思い・願いが出てきた。そこで、だれとどんな遊びをしたいのかを話し合う中で、普段からよくかかわっているペアの「6年生のお兄さん・お姉さん呼びたい！」という意見がとても多く、すぐに決まった。そこから『1年C組あきのおもちゃランド』を開くことになった。ここで、今まで作って思いきり遊んだ“けんだま・ヨーヨー・やじろべえ・こま・マラカス”の5つを出し、それぞれが今まで一番楽しかったものを選び、グループに分かれた。



こま回し大会「いくで～！」

○子どもたちが対象にどっぷりとつかることの大切さ！

本単元を通して、“子どもたちがどっぷり対象にかかわることのできる時間”が生活科に最も大切だと感じた。もちろんただ時間があればいいわけではない。教師は子どもたちから、「だれかといっしょに遊びたいな。（見せたいな。）」という思い・願いが出てくるための、手立てをしていくことが必要である。その手立ては、まずゲーム性要素のあるものを提示したことである。今までは一人でも「楽しい！」と感じられるものを作ってきた。今回は、作れば必ずと人とかかわりたくなるものにした。もう一つは客観的にとらえて自分で「すごい！」と思えるものを作ることである。1学期は、自分が一生懸命作ったものに大満足だった。見せたい人も“おうちの人”という思いが強かった。しかし発達段階に伴い、他者と比べる・お手本となるもののできるだけ近づけようとする（また近づけることができる）・自分の作品を客観的に見るができるようになってくる。ただ作るだけでは「人に見せたい。」（おうちの人以外）とはならないと考えた。そこで、どんぐりのおもちゃづくりではゲストティーチャーを招いて、子どもたちが「こんなの作れたらいいな！」と思えるものを提示した。実際に作ったものは、提示したものより様々な工夫やアイデアが加えられていた。このおもちゃは「6年生のお兄さん・お姉さんにプレゼントしたい。」という思いを生んだ。“自分たちが楽しくて、おもしろい”と感じた遊びを、“だれかに知ってもらいたい！もっといっしょに遊びたい！”と思えることは対象にどっぷりとひたったからこそ生まれたと考える。教師は子どもたちの思い・願いをみとり、そこにねらいを重ね、単元の流れをつくっていくのである。

生活科は、絵や作品などの子どもたちから生まれた具体物・ワークシートなど表出されて、形に残るものが多いとはいえない。活動の中では形に残らない“気付きやつぶやき”がとても多いのである。しかし、これを見とることが必要なのである。この“生もの”を、どのようにみとっていくかが、生活科の大きな課題となると考える。また生活科と各教科とのかかわり（合科）を考えた年間指導計画の作成も必要不可欠である。



「見て！落とし穴あるん。」

指導助言の先生が「子どもたちを信じ、学習活動を進めていけば、子どもたちが学習の流れを創っていきますよ。」とおっしゃった言葉を忘れずに、これからも子どもたちといっしょに学習に取り組んでいきたい。

科学的な思考を促すために～

6年『水溶液の性質』 5年『物の溶け方』

複式部
5・6F 担任
西村文成



学習指導要領解説「理科の目標」の最後に、「…自然の事物・現象についての実感を伴った理解を図り、科学的な見方や考え方を養う。」とあります。P.14に「科学的な見方や考え方を養うこと」について詳しく書かれています。その中でも、「見方や考え方とは、問題解決の活動によって児童が身に付ける方法や手続きと、その方法や手続きによって得られた結果及び概念を包括する。」とあります。「話し合い」をすることで新たな気づきがあります。「ノートにかく」ことでイメージが可視化され、思考の整理がされます。自己・他者との対話の深まりも期待できます。「話し合い」や「ノートにかく」ということを通して、「科学的な見方や考え方」を身に付け、より科学的な思考を促すことができると考えました。ここでは複式学級での「粒子についての基本的な概念」をとらえる実践を紹介します。



いろいろな物を溶かしてみよう!



辞書で「とける」って引いたら…



異学年で学ぶ複式では、6年生が5年生に器具の使い方を個別指導している!

自由試行
いろいろ試してみよう!



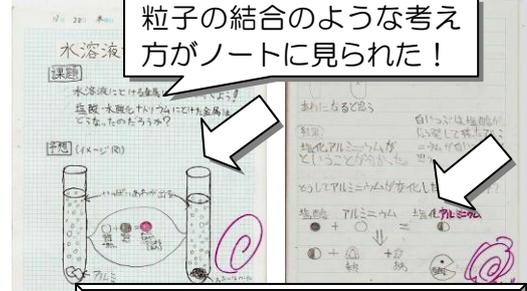
みそはしばらくすると2つに分かれたよ。どうしてだろう…?

思考の基礎となる体験・知識



話し合いでの新たな気づき

**なぜ?
どうして?**
根拠をもって考える



粒子の結合のような考え方がノートに見られた!

科学的な思考を促す



確かめてみよう!

新たな知識の獲得
確かめたい課題
ふり返り、考える

ノートにかくことで、思考の整理・深まりが!

ノートには、課題・実験・予想・結果・考察・まとめをかいている。

学びの概要

5年「物の溶け方」

「とける」ってどういうことか?から考え始め、いろいろなものを溶かしたり、とける様子を観察したりしながら見えなくなってしまった粒について探っていた。そんな中から、見えなくても重さが増えていることや温度変化で粒が消えたり見えたりすることから見えない粒の存在に気付いた。

6年「水溶液の性質」

5年生と「とける」ってどういうことか?から考え始め、金属を溶かす水溶液があることを知り、その水溶液の性質について調べたり、いろいろな水溶液について調べたりしながら水溶液について探っていた。そして、話し合う中で水溶液に溶けている見えない粒の分解や結合にも気付くことができた。

本気で取り組む子を育てる ～スーパーマーケットの学習から～

社会科
3年B組担任
松尾光孝



◆具体的なものを提示してみんなの前で発表する◆



チラシを用意

社会科では、子どもたち自身がどれだけ「ひと・もの・こと」に本気で関わることができるかが学習のカギだ。子どもたちが本気になるためには、適度に抵抗感のある課題設定が必要である。しかし、それ以上に大切なことは子どもたちの生活に近いところから単元構成するであろう。そこが一番難しいと私自身痛感している。今回のスーパーマーケットの学習では、買い物調べから始めることとした。

具体的にはメッサ・ガーデンパーク店とプライスカット屋形店を比べながら学習を進めたのだが、それぞれ2回ずつ訪れて実地調査を行った。残念ながら今回、「ひと」に迫る子が少なかったことを考えるともう少し見学の機会が必要だったのかもしれない。ただ、見学の交渉をすると「2回も来るのですか？」という声が返ってくる。子どもたちが本気で探求したいと考えればどうしても数度の見学が必要となってくる。



両店の品物を比較

社会科の学習のあり方と受け入れる側の意識のズレがどうしてもあることが分かった。(実は受け入れてくれただけでもありがたいのだが…)

学習を進めていくうちに、メッサとプライスカットが同じオークワグループであることに気づき、「同じオークワなのにメッサとプライスカットの値段が違うのはなぜだろう」と疑問を子どもたちはもった。また、メッサの店長さんの要望もあり、「もっとメッサにお客さんが来るようにするにはどうしたらいいのだろう」と考えていた子どもたちから、「メッサもプライスカットのように安くすることはできないだろうか」と考えた。しかし中には、メッサは安くできないのではないかと思う子もいて、「メッサの商品を安くできるか、できないか」を本時の課題に据え、話し合うこととなった。



珍しいものを提示

ここからは課題に向かって自分の意見を決め、よりみんなに聴いてもらうためにはどうしたらいいか、ひとり学習に入り、本時まで各々自分の意見をどう発表するのか作戦を立てていった。その作戦を建てることその子の本気が問われる場だと私は考えている。クラスで行くのととは別にもう一度メッサにいて写真を撮る子。メッサとプライスカットの特徴を表に表す子。メッサとプライスカットの同じ商品を買ってきて、比べる子。めずらしい物を売っている具体物としてドリアンを買ってきた子。輸入品の具体物としてポルトガル産のクッキーを買ってきた子…等々、ただ自分の意見を言葉にして言うだけではなく具体的な証拠をもって授業に臨もうとしている子がたくさん出てきた。まるで、スタートラインに立った走者が今にも鳴ろうとしている「用意ドン」の号令を待っているかの状態である。こんな姿が見られたことで、子どもたちの本気を多少なりとも感じることができた。

社会科では、子どもたち自身がどれだけ「ひと・もの・こと」に本気で関わることができるかが学習のカギだ。子どもたちが本気になるためには、適度に抵抗感のある課題設定が必要である。しかし、それ以上に大切なことは子どもたちの生活に近いところから単元構成するであろう。そこが一番難しいと私自身痛感している。今回のスーパーマーケットの学習では、買い物調べから始めることとした。

買い物調べで重要なことが分かった。それは、附属小学校のおうちの人は決して1つのスーパーマーケットだけを利用

しているのではなく、その目的や場合によって複数のスーパーマーケットを利用していることだ。そこで、「なぜ、おうちの人は1つのスーパーマーケットを使わずにいくつかのスーパーマーケットを使うのだろう」という疑問を軸としてスーパーマーケットの単元構成をした。

具体的にはメッサ・ガーデンパーク店とプライスカット屋形店を比べながら学習を進めたのだが、それぞれ2回ずつ訪れて実地調査を行った。残念ながら今回、「ひと」に迫る子が少なかったことを考えるともう少し見学の機会が必要だったのかもしれない。ただ、見学の交渉をすると「2回も来るのですか？」という声が返ってくる。子どもたちが本気で探求したいと考えればどうしても数度の見学が必要となってくる。

社会科の学習のあり方と受け入れる側の意識のズレがどうしてもあることが分かった。(実は受け入れてくれただけでもありがたいのだが…)

学習を進めていくうちに、メッサとプライスカットが同じオークワグループであることに気づき、「同じオークワなのにメッサとプライスカットの値段が違うのはなぜだろう」と疑問を子どもたちはもった。また、メッサの店長さんの要望もあり、「もっとメッサにお客さんが来るようにするにはどうしたらいいのだろう」と考えていた子どもたちから、「メッサもプライスカットのように安くすることはできないだろうか」と考えた。しかし中には、メッサは安くできないのではないかと思う子もいて、「メッサの商品を安くできるか、できないか」を本時の課題に据え、話し合うこととなった。

ここからは課題に向かって自分の意見を決め、よりみんなに聴いてもらうためにはどうしたらいいか、ひとり学習に入り、本時まで各々自分の意見をどう発表するのか作戦を立てていった。その作戦を建てることその子の本気が問われる場だと私は考えている。クラスで行くのととは別にもう一度メッサにいて写真を撮る子。メッサとプライスカットの特徴を表に表す子。メッサとプライスカットの同じ商品を買ってきて、比べる子。めずらしい物を売っている具体物としてドリアンを買ってきた子。輸入品の具体物としてポルトガル産のクッキーを買ってきた子…等々、ただ自分の意見を言葉にして言うだけではなく具体的な証拠をもって授業に臨もうとしている子がたくさん出てきた。まるで、スタートラインに立った走者が今にも鳴ろうとしている「用意ドン」の号令を待っているかの状態である。こんな姿が見られたことで、子どもたちの本気を多少なりとも感じることができた。



輸入品を提示



お店の特徴を表化

『シンコペーテッドクロック』をうたおう

音楽科
2年A組担任
田辺 麻衣子



■「いい音を感じてあそぼう」の実践から



この題材では、『シンコペーテッドクロック』を中心に取り組みました。楽曲中5回繰り返される旋律に歌詞を付ける活動を行いました。それは、曲を聴いて感じたことや想像したことを感想文などで書くよりも、歌詞にする方が言葉を選んだり、曲にあわせようと集中して聴いたりするのではないかと考えたからです。

何度も聴くうちに、楽器の音色やリズムの変化などを感じ取ります。そこを根拠にして歌詞を作ること、曲がもつ表情や世界にせまることができるのではないかと考えています。



実際に歌詞を付けるときには、前時に描いていた絵をもとにする子どもが多くいました。1人で考えるのが難しい子どもには、ペアで考えてもよいことにし、取り組みやすくしました。最初は難しく考えていた子どもも、友だちの作った歌詞を聴くことでだんだん作れるようになってきます。



とけいのはりが
ぐるぐるまいちやっ
とつてもはやいよ
はりがおこっちゃっ
たよ

とけいせいじんが
おこりだしたらこわ
い
ピヨピヨピヨヨ
びっくりばこでたよ

みんなでいこう
ときのせかいへ
とけいもいっしょに
ぼくのいえにいっ
こう

いったいぼくは
なんのためきつた
んだろ
なんかいならし
ても
みんなはおっき
ない

ときははやいよ
いまこわれるとき
ぼくもしらなかつ
た
こわれるうんめい
のひ

～子どもたちの考えた歌詞から～

曲に合わせて
歌ってみて下
さいね!

■「歌詞作り」をする前に

『シンコペーテッドクロック』の面白さは何と言ってもウッドブロックのリズムとベルの音、そして最後のカウベルなどの打楽器です。『シンコペーテッドクロック』の歌詞作りの前には、子どもたちがたっぷり打楽器に触れる時間をとることが大切だと考えます。自由に触れる中で、打楽器の奏法を工夫したり、音色の違いに気付いたりすることができます。そのことが『シンコペーテッドクロック』での気付きにつながります。



あんまり音の響か
ないところが好き
だよ。

たたるところを変え
たら、音も変わるよ。



椋鳩十の作品を味わおう

～『大造じいさんとガン』～

国語

5年A組 担任

中西 正子



椋鳩十の作品は、野生動物の生き様とそれを目の当たりにし心動かされる人間の姿が描かれているものが多い。『片耳の大鹿』の大鹿、『森の王者』のウルフ、『金色の足跡』の親ギツネ、『月の輪グマ』の母グマなどの行動には、身の危険を回避する知恵やわが身を投げ打ってでも子を守ろうとする本能的な愛があふれており、読者も物語に出てくる人間と共に心を突き動かされる。そんな椋鳩十の作品を子どもたちと読み味わいたいと考えた。

そのために教科書教材『大造じいさんとガン』をどのように読んでいくか。各場面における大造じいさんの小さな心の動きを丁寧に読むことを一人学びの軸にし、次の3つを話し合いのテーマにして学び合いたいと考えた。次の3つのテーマは、初発の感想をもとに話し合っただけのものである。

テーマⅠ 『ううむ。』と『ううん。』とでは、どちらが強く感心している？

テーマⅡ 「大造じいさんの残雪に対する心の変わり目はどこ？」

テーマⅢ 『堂々と戦おう』ってどういうこと？

《テーマⅡ「大造じいさんの残雪に対する心の変わり目はどこ？」の授業より》

はじめにここが変わり目だという2つの意見が出た。

C1: 「大造じいさんは、ぐっとじゅうをかたに当て、残雪をねらいました。が、なんと思ったか、再びじゅうを下ろしてしまいました。」のところで心が変わったと思います。

C2: C1さんの言っている所で残雪を撃つのをやめたから変わったと思うけど、「大造じいさんは、強く心を打たれて、ただの鳥に対してしているような気がしませんでした。」のところで感動してもっと変わっていると思います。

C3: ぼくは、『どうしたことだ。』じいさんは、小屋の外にはい出してみました。」のところやと思う。わけは、小屋の中で「撃とう」「撃とう」って思っていたのに、あわててはい出したということは、撃つのをやめたってことだから。

C4: じいさんが小屋から出たのは、ものすごい羽音とともに、ガンの群れがバタバタと飛び立ったから、「何が起こったんやろう。見てみよう。」って思っただけで、心は変わっていないのと違うかな。

C1: 今日の話し合いのテーマは「大造じいさんの残雪に対する心の変わり目はどこ？」だから、「残雪に対する心」を考えたら、『どうしたことだ。』のところでは、まだ変わっていないと思います。

C5: C1と同じで、『どうしたことだ。』じいさんは、小屋の外にはい出してみました。」のところでは、まだ作戦通り、ガンの群れを「撃つ」つもりでいると思うんだけど・・・。

T: 今「撃つ」って言うてくれたけど、これまでの大造じいさんの残雪に対する心を振り返ってみようか。

C6: 残雪が来てからガンがとれなくなって、いまいまして思っている。

C7: あの残雪め、今年こそはつかまえるぞと思っている。

C8: 「ううん。」とうなってしまったところでは、ものすごくくやしい思いをしていた。

T: そうだね。そんな大造じいさんの心がどこで変わったのかグループで話し合ってみよう。



C1・C2の発言から吟味につなげたいと考えたが、C3の発言が飛び出した。C3はじいさんの「わくわく」した気持ちが事態の急変で「どうしたことだ。」と一瞬めんくらったことをとらえたのだろう。この作戦に対する思いの深さも読み取っている。しかしここで、子どもたちは首をかしげ、本文に立ち返った。「残雪に対する心」という発言で子どもたちは納得した。C3の発言の後、すぐに「そうかな？」と問い返さず、発言を聴いてよかったと思う。

『大造じいさんとガン』を軸にし、子どもたちは椋鳩十の他の作品でも、似ているところを見つけながら、野生動物に向き合う人間を見つめたり、作者の思いを感じとったりして読み味わうことができた。

思考の過程を“みえる化”する！！ ～シンキング・ツールの活用～

総合
3年A組担任
山中 昭岳



新学習指導要領において観点別学習状況の評価の新しい観点として、「思考・判断」と「表現」が一体化された「思考・判断・表現」となりました。このため「思考・判断」と「表現」が一体となった学習活動の展開が重要となってきます。そこで、1つの手法として、シンキング・ツールの活用をご紹介します。一人一人の思いや考えが目に見える形で表出され、問題解決の過程が明らかとなり、どのような経緯で判断したのか、その理由や根拠を明確にした表現活動が可能となります。

☆シンキング・ツールとは

イメージマップ、ベン図、チェーン図、チャート図、フィッシュボーンなど多様な図形を活用して考えることを助けてくれるもの。比較、分類、序列化、分解、関連付け、発想を広げる、視点を変えて考えるなど多様な思考に対して目に見える形で表現できる。付箋を活用するケースも多い。

☆「ネットdeカルタ」での取り組み

それぞれの自慢をカルタ（絵札と575）で表現し合う交流学習「ネットdeカルタ」を行っています。カルタをよりよくするブラッシュアップ場面での思考過程を“みえる化”した事例を紹介します。



付箋を用いたKJ法を活用したグループでの思考場面

カルタをフラッシュアップ！！ ブラッシュアップ前後のカルタを掲載

赤門にいた理由
学校に来てすぐあゆみ

赤門の頭文はあゆみだから

クラスで話し合い

カルタのブラッシュアップ場面において、どのように考え修正を行ったのかを吹き出しを活用して表現する。さらに矢印で変容の関連付けを行う。

グループでのカルタのブラッシュアップ場面において、それぞれの考えを付箋で表現し、それらを話し合いながら動かして整理・分類していき、グループでの考えをまとめていく。

575について分類・整理したシート

赤門は あ〜なかい 134年 あきもんは	5の1	れきしながい れきしいろいろ 変っていない おきたり れきしながい
5の2 今までと つめてる あきもんは ぎれいたよ		(理由) あから赤門でいけ ないと言ったのであ から始まる言葉と考 えられたれきし色々 つめてるからだんれき し

あ〜長いれきし色々つめてる
?と思っからいいと思いました。

From Editors

『らいぶ・創りえいた』も10年目を迎えました。「生き生きと本物を創り出すひと」という意味を込めています。

本校ホームページにはカラー版を掲載しています。ご意見・ご感想をお寄せ下されば幸いです。

編集委員：藤原，上野，梶本，松尾，江田

和歌山大学教育学部附属小学校

〒640-8137 和歌山市吹上1丁目4番1号

TEL (073) 422-6105

FAX (073) 436-6470

URL <http://www.aes.wakayama-u.ac.jp>

E-mail fuzoku@center.wakayama-u.ac.jp